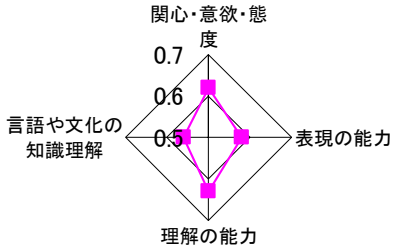
平成26年度　　**教科名[英語]**　　中15　　練馬区立光が丘第一中学校

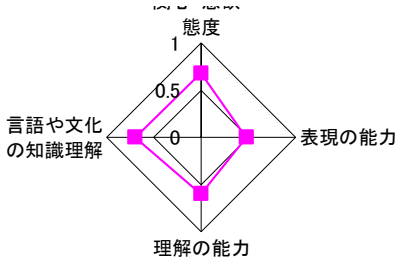
内容別・観点別の分析　（様式2）

1年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	62%
表現の能力	58%
理解の能力	63%
言語や文化の知識理解	56%



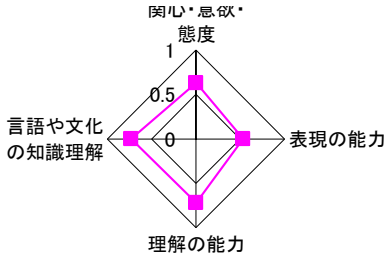
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年	観点別平均達成率
関心・意欲・態度	68%
表現の能力	48%
理解の能力	60%
言語や文化の知識理解	70%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年	観点別平均正答率
関心・意欲・態度	63%
表現の能力	53%
理解の能力	72%
言語や文化の知識理解	73%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画（様式３）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	・単語力定着のために、小テストを行ってきたが、中々定着がはかれていない。 ・重要表現に関してはワーク等で定着を図り定期考査もワークの問題を中心に出題するなど学習に取り組みやすくしているが、文の内容が変わってしまうとミスが目立つ。	・今後は単語テストの出題範囲を狭めるなど生徒がより取り組みやすいものにしていく。 ・ワーク以外にもプリントを用意し取り組ませるなど質と量の両面から充実を図っていく。	基礎学力が不足している生徒に対しては夏季補充教室を実施し、アウトプットの基礎となる、単語の定着を図る。発展的な活動としては、スキット発表テスト等を実施する際、より生徒自身の思いに即したオリジナルの原稿ができるよう辞書等を活用させながら指導していく。
2年	・毎時間単語テストを実施しているが、成果が表れていると思われる。また、ワークを使用した基本文の定着に関しても概ね成果が表れている。 ・表現の能力に関しては、スピーキングテストだけでなく、ライティングの活動を取り入れる必要がある。	・継続的に単語テストやワークを行い、引き続き基礎の定着を図る指導を行う。 ・表現の能力を改善させるため、より多くのスピーキングの活動を行う。また、多くの生徒が意欲的にライティングを行えるような課題を提示する。	・基礎学力が不足している生徒に対しては夏季補充教室を実施し、スペルと綴りを一致させるよう音読中心に指導を行う。 ・発展的な活動としては、ライティング活動で辞書等を活用させながら、より生徒自身の思いに即したオリジナルの原稿ができるよう指導していく。
3年	・文章読解能力の向上のため毎時間の短い文章の英文読解を行ってきたが成果は出ている。また文法を中心として繰り返しを行って成果が現れていると思う。	・表現の能力がほかの領域期に比べ劣っているので、スピーキングテストや英作文などを中心に指導課題を与え改善していく。	基礎学力が不足している生徒に対しては夏季補充教室を実施し、単語の定着を図る。発展的な活動としては、会話テスト等を実施する際、より生徒自身の思いに即したオリジナルの原稿ができるよう辞書等を活用させながら指導していく。